

# 圓満寺報

第 167 号

平成 28 年 9 月 1 日発行

〒220-0061 横浜市西区久保町50-1

電話 (045) 231-4383

F A X. (045) 241-4499

http://enmanji-yokohama.jp/ e-mail:enmanji@xb3.so-net.ne.jp

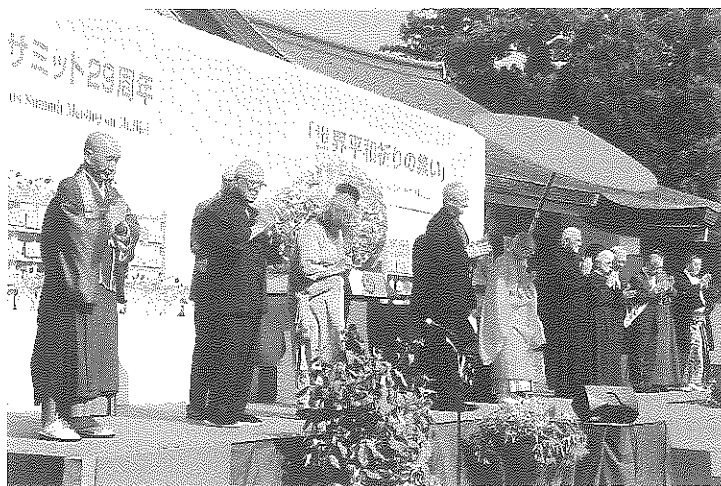
天台宗 別格本山 安禅院円満寺

## 比叡山宗教サミット 三十九周年大会が開催される

安禅院第四十世 住職 西郊 良光  
円満寺第五世

八月四日、午後三時より例年行われております「比叡山宗教サミット二十九周年平和の祈り集い」が比叡山上、平和の碑の前で開催されました。

今年には第二次世界大戦終戦より七十一周年を迎えました。従って平和の祈り集いの前に、四日午前十一時より根本中堂に於いて、諸精霊の回向法要、そして世界平和祈願法要が木下宗務総長の導師により行われ、参列された方々と共に平和が祈られました。



鐘の音に合わせて平和の祈りを捧げる各宗教代表者

ました。

今年には二十九周年という事でしたが、ヨーロッパより聖エジリオ共同代表のクワトルツチ師及びジョバリオーリ師、ローマ法皇の信徒代表の「フオコラーレ」として日本代表小林師、そして日本の諸宗教の各代表団、神社本庁、新宗教団体連合会、全日本仏教会、教派神道連合会、日本ムスリム協会、日本キリスト教連合会の各代表が登壇し、三時半に共に鐘の音に合わせて平和の祈りを捧げたのであります。

特にローマ法皇からの平和のメッセージ、世界仏教徒連盟代表の、パシ・ワナメティ師(タイ人)のメッセージがそれぞれ代表の方によって読み上げられ、比叡山宗教サミットが果たしてきた役割とその姿に大いなる敬意と賞賛をおしまなかつたのであります。

この平和の祈り集いには、比叡山上で研修をしておりました天台青少年が約三百名も参加し、平和の合言葉を述べて、平和のために働きましょうと誓ったのであります。

特に青少年代表の「平和の尊さ」の発表では、二人の少年が、自分の経験にもとづいた平和についての意見発

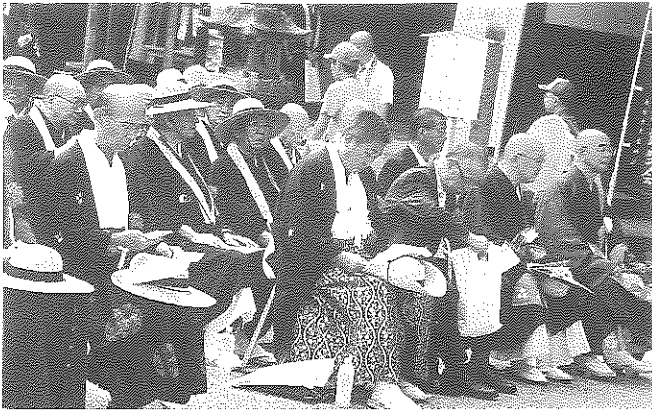
表が述べられて、平和の祈り集いに参加された人々に深い感銘を与えたのであります。

比叡山サミットは二十九年前、当時の天台座主、山田恵諦親下の発意のもと、その呼び掛けに呼応して日本の全宗教団体が参加され、開催されたのであります。山田親下はローマ教皇、パウロ二世陛下の呼びかけに応じ、イタリア、アッシジでの世界平和の祈り集いに参加され、是非この祈りの集いを東洋で開催したいと述べられ、各宗教に呼びかけて二十九年前に比叡山宗教サミットが始まりました。

今年にはイタリア、アッシジの祈りは三十周年を迎えます。ローマ教皇の呼びかけに私共比叡山宗教サミットの関係者は九月十六、二十三日迄この平和の祈り集いに参加し、世界の諸宗教の代表者と親交を深めることになっております。

このように比叡山宗教サミットは歴史を更に進め、全世界の平和に向けて更なる努力と継続を行う事となり、ローマと歩を合わせて行く事になります。

平和は何としても人類にとつて一番大切な宝であります。平和こそ私共人類の大きな願いであり、力であり、共に平和の祈り、平和のために働きましょう。



当日は酷暑の中、多数の方々が参列



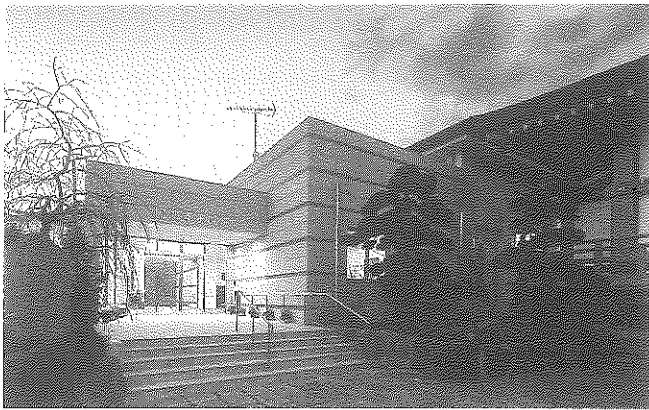
平和宣言を行う森川宏映天台座主観下



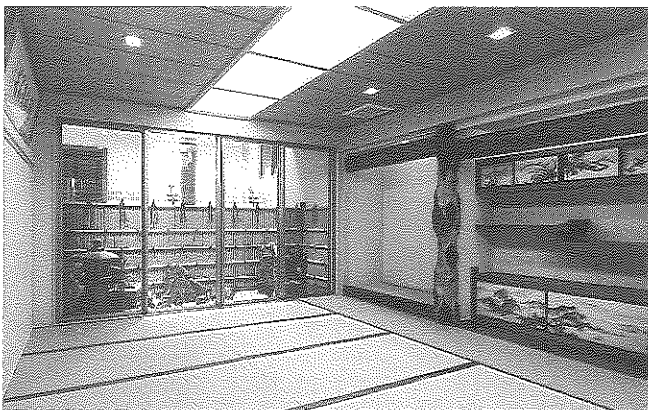
天台青少年と平和の祈りに参加



平和祈願法要に出仕する当山住職



当山書院入口全景



書院の中の日本間の模様

# 円満寺書院・庫裡建設

## 寄付金への最後の御願い

平成二十六年正月に円満寺書院・庫裡建設委員会が発足し、建設のための寄付金を檀信徒の皆様のおかげを申し上げ、檀信徒の大方の方々より身に余る浄財を御寄進頂きました。

御陰様で工事も順調に進行し、昨年五月二日に円満寺書院、庫裡の落成式を盛大に挙げる事ができました。

檀信徒の皆様には御礼としての記念品を贈呈させて頂きました。

その後も檀信徒の皆様より今般の建

設に対しましての御寄付を頂いておりませんが、まだ納めていただけでない方もございますので、ここで最後の御願いを致す事となりました。

勸募期間は二十九年三月迄となっておりますがどうぞそれまでに皆様と同様の御寄付を下さいますようお願い致します。事情により納められない方々については了承しておりますので御承知下さいませ。

# 秋彼岸会によせて

いろは歌は誰もが一度は耳にしたことがあるかと思えます。

「いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ うゑのおくやまけふこえて あさきゆめみし ゑひもせす」。漢字にしますと、「色はにほへと 散りぬるを 我が世たれぞ常ならむ 有為の奥山今日越えて 浅き夢見じ 酔ひもせず」。

古くから文字の練習に使われている「いろは歌」は実は、仏教的内容が描かれています。その内容を少し紹介致します。

まずは「色は匂へど」の部分。色が匂うというのは、香りのことではなく花の色のことです。桜の花が鮮やかに色づいていることで、それを色がおうと言っています。

「散りぬるを」。しかし、そういう色づいた綺麗な桜の花もやがては散ってしまふ。

「我が世誰ぞ常ならむ」。今生の生で誰がいつまでも勢い盛んでいられようか。この世に不変な物などありはしないといふ諸行無常のことを言っています。

「有為の奥山今日越えて」。有為とはきつかけがあつて、そこから起こる世の中の一切の事象のことです。先の見えない不安や迷いを奥山を歩いていることに例えていて、不安や悩みや苦しみを、様々な煩惱の山を今日越えることを表しています。そして最後に「あさき夢みし酔ひもせず」。煩惱の見せる苦しみに心を悩まされ酔つことなく、苦しみから解放されることを表現しています。このようにいろは歌は、とても仏教的内容であることが分かるかと思えます。いろは歌だけに限らず、「祇園精舎の鐘の声」で有名な平家物語など、諸行無常が言かれた和歌や詩は多々あります。

世の中に不変な物事など無いと言葉では分かっているが、ついついそれを忘れたがちになってしまつていく。そういう事柄は私自身もよく感じるところであります。

さて、秋の彼岸が近づいてまいりました。お彼岸は秋分の日を中心前後三日間を合わせた七日間を、彼岸または彼岸会といひます。あらためて自分の周りの大切な物、かけがえのないものを考えまして、ご一緒に御先祖様のご供養をして頂けましたら幸いに思ひます。

## 円満寺勤行儀

### 第四回

#### 自我偈①

前号に続きまして当時のお勤めでお唱えしているお経について解説いたします。

自我偈は正式には『妙法蓮華經如来壽量品』(みょうほうれんげきょう)によらいじゅうりょうほん)と言い、妙法蓮華經、俗に言う『法華經』の中のお経の一つです。今回は自我偈の内容に入る前に、まず『法華經』がどのようなお経なのか、という概要について解説いたします。

お釈迦様が説かれた教えはお経として現代に数多く残されていますが、その中でも『法華經』はお釈迦様の晩年に説かれた重要なお経で、例えばそれまで明かされていなかった様々な立場の方々の成仏について説かれていたり、以前のお経では説かれていなかった部分が解説されています。

また、円満寺は天台宗のお寺ですが、天台宗は『法華經』を宗派の最も根本の經典、つまり最重要のお経と位置づけています。どうしてかと言いますと、そこには天台宗の成り立ちが関係しているからです。

日本では天台宗は、伝教大師最澄が約一千二百年前に宗派を比叡山に開きました。実はこの約二百年前、中国の天台山において天台大師智顛が中国で天台宗を開き、それが日本に伝わった、という成

り立ちがございます。

天台大師は、当時インドから中国へ伝えられた膨大な經典のすべてをひとつひとつ調べて整理し、その中で『法華經』が一番尊く、すべての人々を救うことができるお経であることを確信し、『法華經』を中心とした天台宗の教えを作りました。この流れを天台宗は受け継いでいますので、日本の天台宗も『法華經』を最も大事なお経と考えている、というわけですね。

『法華經』は全部で二十八巻あり、自我偈は十六番目のお経ですので、『法華經』全体はかなりの量になります。日々の生活に活かす事のできる様々なエッセンスや理論が詰め込まれている一方で、『法華經』は教えが物語風に構成されていますので、情景が非常にイメージしやすくなっています。

お経の意味を考えてみたり、当時の時代背景を考えたり、と掘り下げれば掘り下げるほど深みが出るのも『法華經』の魅力ですが、意味などあまりわからずに「ただなんとなくお唱えしたり、イメージを膨らませる事ができるのも『法華經』の大きな魅力の一つですので、次回以降の解説もどうぞお気軽にお読み頂けましたら幸いです。

次回はいよいよ自我偈の内容について触れていきたいと思います。